

[HOME] キーワード 検索 ! NIKKEI NET ! NIKKEI NET 新製品!
! マネー&マーケット! ITニュース! 日経goo!
! [会社概要](#) ! [株価情報](#) ! [株式コード:9815](#) ! [公式ホームページ](#) : <http://web.archive.org/web/20020108014952/http://www>

カテナグループ、藤田八三氏を中心に「Lye国際学術共同研究プロジェクト」を設立

12ヶ国 33名の研究者が参加
「Lye国際学術共同研究プロジェクト」が開始

カテナグループのソフトウェア生産技術研究所株式会社代表取締役社長である根来文生が発明したソフトウェア開発基盤技術「Lye」は、日本発の革新的方法として、既に日本市場において圧倒的生産性向上を実現しております。

この度、藤田八三氏 (岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授) をリーダーとして、「Lye国際学術共同研究プロジェクト」を開始致しました。「Lye」の考え方に注目し、「Lye」を更に評価 研究したいと望む世界 12ヶ国 33名 (現時点) の研究者が参集するという他に類を見ないワールドワイドな共同研究となります。

本プロジェクトのスポンサーシップはカテナ株式会社、ソフトウェア生産技術研究所株式会社が共同で担います。本プロジェクトにより、世界レベルでの「Lye」普及が図られ、ソフトウェア世界の現状の課題が抜本的に解決されていくものと確信しております。

【 設立の主旨 】

1. 設立の背景

これまでソフトウェア開発の世界において、データ中心アプローチやオブジェクト指向といった開発方法論、ERPに代表される各種パッケージ、あるいはCASEツールといった様々なツールが導入されてきました。又各種言語も色々開発され利用されてきました。しかし、どれ一つとっても情報システム開發生産性向上の決定打とはなっておらず、あたかも課題を解決したかに見えて、一方で新しい問題を作り出しているという有様であり、抜本的な解決がなされていない状況です。その結果昭和50年代をピークとしてソフトウェアの生産性は毎年低下してきていると言われております。他方、社会におけるソフトウェアの需要は益々拡大の一途を辿っており、多くの企業で多大な資金と時間を費やしながらかも、巨大なバックログを抱え、新規ソフトウェアニーズには十分答えることができていないという状態に陥っております。このままでは、事態は益々深刻化せざるを得ないと思われま

このようなソフトウェア世界の閉塞感、実業界のみにとどまらず学術界においても同様に、細かくソフトウェア開発の工程を分割し、各工程毎の改善案を検討するといった分析的アプローチばかりが進められ、全体として如何に変革するかといった総合的アプローチがなされてきておりません。

一方「Lye」は、根来文生の独創的仮説から生み出されたシナリオファンクションという普遍的プログラム構造により、ユーザーの要件を簡潔にかつ柔軟に捉え、そこから最下流の製造までを自動生産してしまうという革新性により、既に日本のビジネス市場において圧倒的効率性 (早く、安く、巧く) を実現しております。

「Lye」の持つ革新性は、実業界はもとより学術界においても現状の閉塞感を打破する決定打として、内外の研究者から大いに注目されつつあります。

2. 設立の目的

本国際学術共同研究プロジェクトは、ソフトウェア開発基盤技術「Lye」及び「Lye理論」を中心として、広く世界中の研究者の協力を得て、現状のソフトウェア世界が抱える課題を解決するべく、21世紀の新しいソフトウェア開発方法を確立、拡充する目的で、(1)Lye理論の研究、(2)開発基盤の改善拡充、(3)既存開発方法との比較、(4)適用領域の拡大、(5)開発ツールの開発等の共同研究を進めます。

2002年には研究中間報告としてのワークショップの開催、2003年には研究最終報告としての国際学会を開催する予定です。

【 Lye国際学術共同研究プロジェクトの概要 】

1. 名称 : Lye国際学術共同研究プロジェクト

2. 設立年月日 : 2001年 6月 1日

3. 設立の目的 : ソフトウェア開発基盤技術「Lye」及び「Lye理論」を中心として、広く世界中の研究者の協力を得て、21世紀の新しいソフトウェア開発方法を確立、拡充する目的で、国際的学術共同研究を進める。

4. 研究期間 : 3年間

5. 研究報告 : 年 2回の定期的研究レポート。
本共同研究のワークショップ、国際学会における提出論文等。

6. プロジェクトリーダー :
藤田八三氏 (岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授)

7. アドバイザリボード:
本共同研究プロジェクトの推進全般につき、必要に応じ助言を仰ぐことができるアドバイザリボードを設置。
西澤潤一氏 (東北大学名誉教授、岩手県立大学長)
野口正一氏 (東北大学名誉教授、財団法人仙台応用情報学研究振興財団理事長)
大須賀節雄氏 (東京大学名誉教授、早稲田大学大学院理工学研究科教授)

8. 研究プロジェクトメンバ :
世界 12ヶ国 33名 (現時点) の研究者が参加予定。

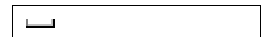
9. スポンサーシップ :
カテナ株式会社、ソフトウェア生産技術研究所株式会社が共同で担う。

関連資料

1. Lye国際学術共同研究プロジェクトの概要
2. 研究メンバー

関連リンク [カテナ オフィシャルサイト](#)
[ソフトウェア生産技術研究所 オフィシャルサイト](#)

関連資料 [Lye開発者コメントなど](#)
[研究メンバー](#)



[戻る](#)

[このページのトップへ](#)

[HOME]

Copyright 2002 Nihon Keizai Shimbun, Inc., all rights reserved.